

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人の運営理念とは別にグループホーム独自の理念をもうけている。誰もが解かり易い理念に変更している。		施設内に掲示 各自ネームプレートに添付
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフに対し常に運営理念に基づいたケアサービスの実現を目標に教育指導を行うようこころがけている。		採用時の研修 ミーティング時の勉強会の実施
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族様への働きかけ地域活動の参加を通じグループホームの運営や理念を理解していただく機会をもうけている。		契約時の説明 毎月のひまわり便り
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	ご近所さんから、野菜などを頂いたりしている。ひまわりでの行事の際はご近所さんにも声をかけさせていただいている。		自治会の会員 地域行事への参加 ひまわりでの行事の際参加呼びかけ
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の会員となっており、地域の活動にもできるだけ参加するようにしている。運営推進会議等での情報交換やひまわりの畑作業についてなど助言頂いている。		自治会会員
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所・スタッフと共に、他のグループホームとの交流を含め地域での役割について話合っている。グループホームスタッフや入居者様の交流も継続的に行っている。		江別グループホーム管理者の集い あおいの会参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>母体法人に自己評価委員会を設置し、各サービスの評価結果を検討し今後の運営に反映している。また、独自のアンケートを行うなどして、入居者様・ご家族様の意向を聞くようにしている。</p>	<p>アンケートの実施</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>平成19年6月より、運営推進会議を実施しており運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議 2ヵ月に1回実施</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>江別市の担当者・担当の地域包括センターとの情報交換を行っている。</p>	<p>江別ケアマネージャーの集いの参加・運営推進会議の参加</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>新規のケースについては制度について、説明を行っている。現在1名の入居者様が制度を利用されている。補佐人の方から情報をお聞きするなどしている。</p>	<p>補佐人1名利用</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体抑制は行っていない。言葉や精神面での拘束に注意を払っている。ミーティング等の際に自己の振り返りをよびかけている。</p>	<p>法人 身体拘束委員会の参加・研修会の参加</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は必ずご家族(必要な場合はご本人を含め) 説明を行っている。</p>	<p>契約時・面会時の説明</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際など、ご家族様にお話するとともに、毎月のお便りや担当スタッフからのお手紙を通しコミュニケーションを密に行っている。		ひまわり便り、担当スタッフからの手紙の郵送
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	お預かりしているおこずかいについては、毎月報告行い健康状態についても毎月のお便りの他に特変があった際は必ず報告し、経過も連絡している。		月締めにて記録用紙と領収書をご家族様にお渡ししている
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約の際説明するとともに、施設内にも掲示している。		契約書記載・ホーム掲示
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の定例ミーティングとカンファレンスの際などに聞き取りを行うとともに、業務の中では遠慮なく話しあえる機会を作っている。		事業計画の作成
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の状況に合わせてたり、行事を行う際などは、人員の体制を多くする等の配慮をし、活動の集中する時間には出来る限り4名体制をとっている。		日勤3名・遅番1名・夜勤1名の体制
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的に移動は最小限とし、入居者様となじみの関係を崩さないように配慮をしたり、事業所間の交流を日常的に行い、移動を考えて事前の関わりを行っている。		法人行事への参加・合同行事の開催・他のホームとの交流

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	ヘルパー・介護福祉士・介護支援専門員の受験対策を行ったり、法人主催の学習会、外部学習会等に参加している。	法人内での学習会の参加 外部研修の参加
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	江別しのグループホーム管理者の集い(あおいの会)に参加。月1回の定例会議、共同行事などを行っている。	管理者の集い参加
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	他のグループホーム、法人の他の事業所の職員等の交流などストレスの軽減を考えている。	法人親睦会の参加・他のホームとの交流
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	各自の目標設定を行い、支援を行っている。	介護福祉士・介護支援専門員の受験対策 外部の学習会の参加
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	相談の際は、時間をかけ面接を行うと共に、待機の方に対しても定期的に面接や連絡を取るようにしていく。	訪問面接・見学会の実施
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	相談者の方に対しては、現在の状況をよくお聞きしていく。	法人内 相談センターとの連携

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今必要なサービスで介護が困難な場合は、老健の利用や他のサービスの利用を含めてお話を伺っている。		法人内 相談センターとの連携
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面接やグループホームの見学、短時間の利用などを行い無理のないように入所を勧めている。		必要に応じて期間を考えたり、他の場所を経由するなど
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様の想いを汲み取り、主役であるよう無理のないように支援している。できるかぎり共に行う事を目標にし、スタッフも学ばせていただいている。平等な関係作りをめざしている。		アセスメント重視
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	解からない事は、こちらからどんどご家族様に尋ね、一緒にケアする体制をとっている。以前の様子など教えてくださり、ご家族様も協力してくださっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症のために、お互いに傷ついていらっしゃる方に対してはお互いに話しを良く聞き1日も早く関係が修復できるような機会を設けている。とても良く協力してくださっている。		行事参加のお願いやお手紙を送るなど
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のご家族や友人の面会を積極的に受け入れ、必要があれば連絡や送迎も行っている。		送迎の支援や連絡の支援

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の座席や、外出のメンバー等考えている。あまり交流のない方に対しては交流の場を作る機会を作っている。		個別外出など
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後の行き先の確保に協力し、入居者様やご家族様が不安にならないような関係を作っている。		相談センターとの連携。入院や入所の支援
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のケアプランを重視し、何を望んでいるかをアセスメントするようにこころがけている。		センター方式の活用
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様から、入所時、また入所されてからも聞き取り、スタッフ間で情報の共有を行っている。		聞き取りやアンケートの実施
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	新しい入居者様に関しては、情報の収集が不十分であり、身体状況についても、医師・看護師と相談しながら、対応している。ご家族様も的確な情報を持っていないケースもあり、入居後に定期的に検査等を行い身体状況を把握するよう努めている。		センター方式の活用
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当スタッフを作り、細かな点について、蜜に関わるようにしている。スタッフの立てた計画を計画作成者が点検、助言をしカンファレンスの場で他のスタッフと話し合いを行っている。		担当制の実施・カンファレンスの開催

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	短期目標の設定終了時にモニタリング・評価を行い計画の継続や見直しなどを行っている。		担当制の実施・カンファレンスの開催
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別に生活記録に記入している。また、経過については支援経過に記入しいつでも見られる場所にファイルし常に確認している。		生活記録・日課表・支援経過記録
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人の他の事業、通所サービス・デイケア・訪問看護の活用の他に相談センターなど、他の事業所との交流も行っている。		法人合同行事・通所サービスや他のホームとの交流会
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	開設時より、ボランティアの方の協力を得ている。週3回のボランティアの方の協力を得ている。また不定期でのボランティアさんにも来ていただいている。		日赤奉仕団・江別認知症の方の家族を支える会・傾聴ボランティア
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者様の身体機能の維持・向上を目指す取り組みとして、法人のリハビリ担当職員の協力を得ている。法人内相談支援センターとの連携。		法人、リハビリ担当スタッフの協力・相談支援センターとの連携
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席していただくとともに、訪問をしていただいたり、情報交換、入居者様の相談、や紹介など行っている。		江別第2包括支援センター

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>法人運営のみどり野医院の協力があり、入院等の受け入れをお願いしている。入居者様やご家族が希望される医療機関が受診できるようサポートしている。</p>		<p>往診・入院対応・訪問看護の利用</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要な場合は、専門医の受診をお願いしたり、ご家族様の了承を得て受診行っている。</p>		<p>継続的に専門医を受診している。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>確保できている。その他訪問看護師にも気軽に相談している。法人に夜間の入所者様の様子を毎日ファックスで報告・連絡を行っている。</p>		<p>協力医療機関との連携・夜間連絡表の活用</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者様にとって入院はダメージが強いことから、ホームでの生活が可能な場合はご家族の了承を得て訪問看護を利用するなど、入院の期間を短くするようお願いしている。協力医療機関も理解され、協力を得ている。</p>		<p>協力医療機関との連携・訪問看護との連携</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化の指針にそって入居者様、ご家族様や医師と相談できる体制を作っている。契約時に説明し、ご家族の考えをお聞きしている。入院などの際は改めて意向を伺っている。</p>		<p>重度化指針の作成と説明</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末ケアに対しては、チームとしての力量が必要な事から、現在学習中</p>		<p>終末ケアに備えての良好な関係作り</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	協力医療機関への入院が主な事から、ダメージについては十分に配慮していただいている。他の施設などへの転居の際には情報提供や面接なども行っている。		情報提供
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフに対しても個人情報については契約書をとっている。入居者様の尊厳を重視している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来るだけ入居者様の想いを重視するように心がけている。自己決定が難しい入居者様については、選択出来るようにしたり、日頃の思いを反映するようにしている。		ケア理念・契約書記載
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の入居者様の状況により、日課や予定を変更出来るように柔軟な対応を心がけている。しかし、スタッフの力量に差がありケアの統一が図られていない事がある。		スタッフ間の統一したケアの実施と情報の共有化の徹底
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容・美容については、なじみのお店に行きたい方については、同行またはご家族にお願いし、不安になる方についてはホーム内に理容師が訪問し、カット・パーマなど行っている。外出・行事の際などは、お化粧をしたり、おしゃれを楽しんでいる。		訪問理・美容師の受け入れ、床屋・美容室への外出同行
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片付けは役割を持って行っていただいている。苦手な物や硬い物が食べられない方にはその方に合った調理を行っている。食事の席についても良好な関係を重視している。		法人の栄養士による献立の作成・行事食の作成・トロミ・刻み食など

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者様の思いと、ご家族への確認を行い、医師の了承を得て支援している。		飲酒・喫煙の支援
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	可能な限り、トイレでの排泄を重視し、パットやオムツの使用の見直しや、下剤の使用以外にも食事や水分での改善を考えている。		排泄表の利用・寒天、センナ茶など補助食品の利用
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には、日曜日以外は入浴を実施し、夜間入浴も可能な人員体制をとっている。		週6日の入浴日
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様一人一人の就寝・起床時間に合わせた支援の実施。眠れない時はお話を聞いたりスタッフと暖かい飲み物などを飲むなどしている。生活リズムが作れる支援を行っている。		就寝・起床時間については定めていない
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出や家事分担、畑作業など、その方が得意とする物を行っていただき、力を発揮できるように支援している。また、その日の気分によって活動に参入内容を変えたり、休んでいただいたりしている。		畑作業・家事参加・趣味活動・体力づくり・日々の食材の買い物
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支払い能力のある方については、入居者様が自由にお買い物ができるように支援している。能力の低下した方については、スタッフが行う事が多い。		自由に買い物を楽しめる支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	週4回の食品の買出しを初め、ドライブ・個別外出・外出行事・交流会・近所の公園に散歩など行っている。		個別外出・外出行事の企画
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力をお願いしたり、個別外出の際にスタッフとマンツーマンで出かける時間を設けている。入居者様の意向をご家族様に伝え外出などもお願いしている。		プライベートな場所への外出の支援
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話については、いつでもかけられるよう支援している。入居者様とスタッフでの共同での手紙作りなど行っている。		季節のお便り
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間については特に定めておらず、いつでも来所できるようにしている。面会の時間によっては食事の提供をしている。		いつでも面会に来できる体制。食事・お菓子・お茶などの提供
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会には、できるだけ参加し、事例検討など行っている。法人の身体拘束委員会にも参加している。		研修会の参加・法人身体拘束委員会の参加
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は鍵をあけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	外出や散歩の希望のある入居者様に対しては、可能な限り散歩など行い、短時間でも、外へ出られるよう、ユニットを超えて支援している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物に関しては、施錠できる場所に保管している。		チェック表にて確認行っている
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	学集会や避難訓練を実施している。法人のセラピストの協力により、身体機能についてや、嚥下機能について評価行い、ケアに役立っている。		防火訓練・救命救急・避難訓練・転倒予防体操の取り組み
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急については、法人にて研修会を行っている。ホーム内の緊急連絡網を作成し、連絡体制を整えている。		職員緊急連絡網・救命救急訓練
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難場所の確認、避難訓練の実施		夜間想定避難訓練を行っている
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	出来る限り自己実現を行う事は、リスクを伴うことから、必要時にご家族に相談・協力をお願いしている。		出来るかぎり要望にこたえられるように支援していく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	認知症により、体調不良を訴えられない方が多いことから、日々の観察や必要時にバイタルチェックを行うとともに、訪問診察をもうけ医師の診断や定期的な検査を行っている。		バイタルチェックシート
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフは薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化等、医師に報告し、睡眠薬や下剤等の調整も細かく行っている。受診時は連絡表を作成し、指示を確認できるようにしていく。		受診時連絡表の活用
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事・水分・運動を心がけている。食事に関しても食物繊維の多い食材・乳製品・寒天・センナ茶などその方に合った改善策を行っている。		水分・排泄チェックシート
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	唇や口腔内の観察を行い、脱水がないか観察している。食後は入居者様の能力に合わせた口腔ケアを行っている。変化があれば、歯科受診を行い、アドバイスを頂いている。		訪問歯科によるアドバイス
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分・排泄チェックシートを作成し、記録を行い確認している。		入所者様の好まれる飲み物を用意したり、定期的に水分補給を行っている
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染委員会に参加。感染予防マニュアルにそった学習会を行っている。		感染委員会の参加

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生管理マニュアルを作成し、チェックシートを記入している。		衛生管理マニュアル・衛生管理点検表・ハセッパー水の利用
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	家のような造りを重視し、まわりの環境とも調和を崩さないようにしている。室内も出来る限りスタッフの目が届くように工夫している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	明るい雰囲気重視し、作成された作品を飾ったり季節が伝わるように工夫している。手すりを配置し安全に移動できるようにしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	すべて個室とし1人の時間をもてるようにしている。ソファを配置し自由にくつろげるようにしている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご家族様にお願いして、今まで使っていたものを用意していただくようにしている。湯のみや箸などは、同じ物にせず、それぞれ個人の物を使っていただき、ご自分の物とわかるように支援している。大きさも入居者様にあった大きさの器にしている。		湯のみ・箸・茶碗・汁椀は別の物を使用
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	喚起や温度調整は細かく行い、居室については、その方に合った温度になるように調整している。		各居室セントラルヒーティング
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>歩行器・車椅子・杖・手すりなど、その方にあった自助具を使用できるようにしている。</p>		<p>手すりの配置、エレベーターの利用</p>
<p>86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各入居者様にあつた方法で声かけや誘導など必要な支援を行っている。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑ができたため、観察や手入れ、収穫の楽しみが増えた。</p>		<p>次年度はさらに楽しめる環境を作っていきたい</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>更に利用者の情報を集め、スタッフと共有していく。</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ゆっくりと過ごす時間があり、各入居者様のペースに合った対応を行っている。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>各入居者様のペースで過ごされている。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>暖かい雰囲気となじみの関係が作られている。笑顔の多いホームとなっている。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>できる限りの支援は行っている。スタッフの認知症に対する理解を更にふかめていく。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>医療法人の運営もあり、医師・看護師との連携も取れている。急な病状の変化や入院(休日・夜間)の対応も行っている。認知症への理解も深まっている。</p>
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>軽度の認知症の方もおり、その思いをくみとる努力をしている。日々の変化もあり、十分に対応できない面もある。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会の際など、ご家族とゆっくりとお話する時間をもうけている不安に大しても解かりやすく説明し、変化に対しても一緒に対応できる環境を作っている。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように数日に1回程度たまたまに	開設当時より、ボランティアを受け入れなじみの関係ができている。行事等では地域の方にも参加を呼びかけている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	避難訓練に参加していただくなど、協力を得ている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	入居者様・スタッフがお互いを思いやる関係となっている。 スタッフはもっと何かできないか。と考えている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	常に新しい事、より良い事を模索している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	感謝の気持ちをいただくが、要望を伝えて欲しいと感じている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 家庭的な雰囲気大切に、入居者様とスタッフが共に生活する空間と考えています。お互いを必要な人ととらえ、思いやる心を大切にしています。その方の存在が意義あるものと実感して生活していただけるグループホームを目指しています。